

九州北部豪雨災害の教訓や復旧状況

■ 澁谷 博 昭* ■

■ はじめに

福岡県朝倉郡東峰村は、平成17年3月に宝珠山村と小石原村が合併し誕生しました。福岡県の南東部に位置しており、東端は隣県である大分県日田市と隣接しています。面積は51.9km²であり、そのうち山林原野が86%強を占める、人口2,000人余りの福岡県で最も人口が少ない村です。

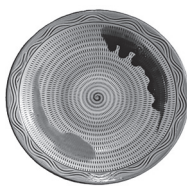


当村は、伝統的工芸品である「小石原焼」や「高取焼」といった陶器の里、また、村内を南流する宝珠山川はホテルの観賞地として知られ、また、日本棚田百選「竹地区の棚田」や平成の名水百選「岩屋湧水」、森の巨人たち百選に選定されている「行者杉」、天然記念物の奇岩群や国指定重要文

化財「岩屋神社」などが点在し、山地部は耶馬日田英彦山国定公園に含まれるなど、日本の原風景に会える自然豊かな「美しい村」となっています。



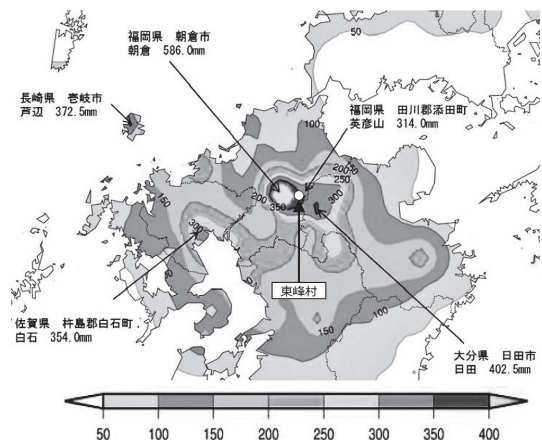
図－1 福岡県における東峰村の位置
※ホームページ国土地理院地図情報に加筆し作成



写真－1 宝珠山 竹地区の棚田と小石原焼

■ 平成29年九州北部豪雨の概要

7月5日、対馬海峡付近に停滞した梅雨前線に向かって暖かく非常に湿った空気が流れ込んだ影



図－2 平成29年九州北部豪雨の等雨量線図
※福岡管区気象台の資料に加筆

*Hiroaki Shibuya 福岡県東峰村長

■平成29年7月5日

- 13:14 東峰村災害警戒本部設置
(大雨洪水警報発令)
 - 13:30 防災無線から注意喚起放送
 - 14:17 村全域に避難準備情報発令
 - 15:00 避難準備の呼びかけ
 - 15:15 村全域に避難勧告発令
 - 15:30 東峰村災害対策本部設置
 - 16:00 避難勧告の再放送(安全な場所に)
 - 16:15 自衛隊の出動要請
 - 16:50 避難勧告の再放送(安全な場所に)
 - 17:51 大雨特別警報発令(九州初)
 - 18:10 避難勧告の再放送(安全な場所に)
- ※なお、避難指示は、避難時における
二次災害を懸念し、発令していない

表－1 当日の東峰村災害対策本部の動き

写真－2 住居に流れ込んだ大量の土砂・流木
(屋椎地区)

写真－3 橋梁に捕捉された大量の流木

響等により線状降水帯が発生し、九州北部地方で局所的に記録的な大雨となり、東峰村役場宝珠山庁舎の自記雨量計では9時間(12時30分～21時30分)で743mmもの雨量を観測しました。その結果、村内を流れる筑後川水系宝珠山川などの河川が次々と氾濫し、さらに村内至るところで土石流が発生して、

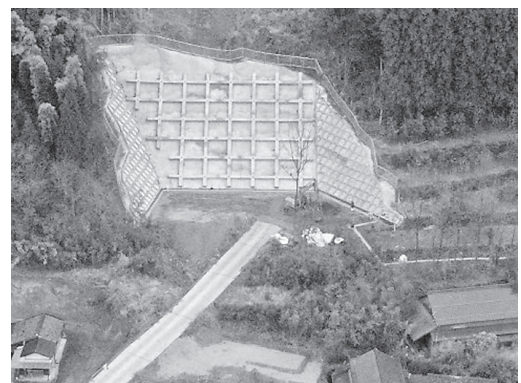
幹線道路である国道211号線などの道路の寸断や、大量の土砂や流木による家屋流失など被害は甚大なものとなり、3名もの村民の尊い命が失われました。

■平成29年九州北部豪雨災害からの復旧・復興

当日、道路網に加えて、電気・水道・通信網までもが寸断され外部との情報が途絶していたなか、国土交通省九州地方整備局のTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)、自衛隊、ボランティアの方々などのご尽力により、寸断された道路啓開、通信網の回復、被災住居からの土砂撤去、被災状況調査など、幅広く災害支援を賜ったところです。また、被災により住居を失われた方々に対しては、福岡県により速やかに応急仮設住宅の建設が開始され、翌月8月18日から入居が開始となるなど、住民の生活再建にむけ取り組んで頂きました。道路などのインフラ施設についても、発災直後の応急復旧から、現在は本復旧工事である災害復旧工



写真－4 昼夜を徹して行われた道路啓開(国道211号)



写真－5 村内で整備が進む砂防施設



写真-6 災害関連地域防災がけ崩れ対策事業での法面対策実施箇所

事を進めており、着実に前に進んでいる段階です。

■平成29年九州北部豪雨から得られた教訓・新たな取り組み

今回の豪雨災害を受けて、防災体制の面や資材準備等の点で多くの課題が浮き彫りとなりました。本部要員の人員確保や通信手段・非常電源の確保、応援要請の決断、避難勧告・指示の発令判断、報道機関への対応など平時から準備をしておく必要があると強く思いました。なかでも「公助」という観点は大災害になればなるほど限界があることを痛感し、「自助」「共助」という面が極めて大事であり、日頃から醸成していく必要性を再認識い



写真-7 学・民・官を含めた復興計画を策定

たしました。

課題をうけ、九州大学の協力支援のもと、復興計画の策定や村内全地区で村民と一緒に避難場所・経路等を抽出整理した「マイ防災マップ」、行動計画となる「マイタイムライン」の作成、災害記録を保存し、風化させることなく、後世に伝える「東峰村災害伝承館」の整備など、学・民・官、一緒になって取り組んでいます。また、速やかな避難行動に繋げるための情報提供の充実とし

て、全村民が利用している東峰村ケーブルテレビの改良、各地区の公民館との双方向の通信網として簡易無線機やカセットガスタイプの発電機を配備、全村民の6割が参加する防災訓練の実施など、

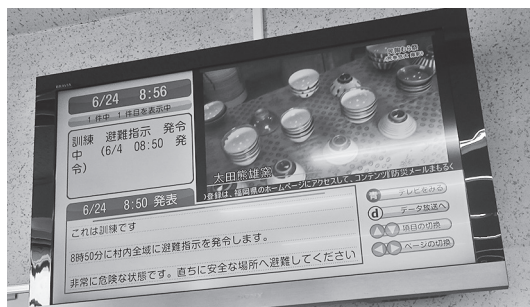


写真-8 東峰村ケーブルテレビの改良（L字放送）



写真-9 東峰村防災訓練に約1300人が参加（令和元年6月23日）

平時から災害に対する住民意識の高揚・啓発に努めています。

■おわりに

平成29年九州北部豪雨から約2年半ほど経過した現在、当村から仮設住宅は無くなり、新たに建設した復興住宅が立ち並びました。また、村が所管する河川・道路等の被災箇所の復旧・復興は概成しつつあり、復興の状況が目に見える形になってきています。これも発災直後から支援頂いた国土交通省、自衛隊、福岡県他、関係機関の方々のご理解・ご支援によるものであり、この場をかり

て改めて感謝申し上げます。平成29年度にとりまとめた「東峰村復興計画」に掲げている「安全・安心なむらづくり」に向け、この災害をひとつの大きな教訓として後世に活かし、単なる復旧にとどまらず、村民の暮らしの再建、産業・経済の復興を成し遂げるよう取り組む所存です。

そのためには、引き続き関係機関による砂防事業・治水事業をはじめとするハード対策はもちろんのこと、速やかな情報提供・発信などのソフト対策も含めた各種防災対策の推進が必要不可欠であると認識しています。関係機関の皆様には引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。



写真-10 平成29年九州北部豪雨被害へのご支援に対する感謝パレード（2019博多どんたく）

東峰村の被災総額 約34億

※平成29年12月末時点

人的被害	住家被害	公共土木施設災害
死者3名 負傷者2名 ⇒重傷1名 軽傷1名	全壊26棟 半壊37棟 一部破損8棟 床上浸水12棟 床下浸水69棟	河川災害 70箇所 道路災害 40箇所 橋梁災害 5箇所 計 115箇所
被害額計 184,323千円	被害額計 504,041千円	被害額計 2,005,218千円
水道施設災害	林道施設災害	農地・農業用施設災害
東峰村簡易水道（村管理分） 導水施設・浄水施設 送水施設・配水施設 応急復旧	林道施設 13路線 75箇所 延長5,433m	田 127箇所 畑 25箇所 水路 38箇所 外 計 210箇所
被害額計 184,323千円	被害額計 504,041千円	被害額計 693,373千円

表-2 平成29年九州北部豪雨による東峰村の被災総額